

令和4年度足立区総合教育会議 要旨

要旨は、議事録から抜粋してまとめた内容であるため、発言の趣旨等については、議事録で発言前後の内容をご確認ください。

【議題】

若年者支援について

【概要】

足立区では、子どもの貧困対策に力を入れているが、区立中学校を卒業し、都立や私立高校に進学した子どもたちが抱えている生活面・学習面での困難が見えづらいことや、中途退学者数が多いこと等が課題となっている。

中学校までの支援で終わることなく、高校進学後においても区として責任のある対応が必要であると考えていることから、区内の都立高校校長から学校現場の声を伺いながら、若年者支援について教育委員と意見交換を行った。

1 高校生の中途退学について

(1) 中途退学の主な原因【説明：足立工業高校校長、青井高校校長】

中学から高校への接続の段階で、下記理由によりミスマッチが起きていると考えられる。

- ・ 子ども本人と保護者の間で進路希望が不一致なまま入学している（子どもは定時制に行きたかったが、保護者の意向で全日制に入学した等）。
- ・ 行きたい学校よりも、偏差値や学力的に行ける学校という観点で進路選択せざるを得ない子どももいる。
- ・ 学校説明会等において、中学生や保護者に対して、高校のPRがしきれていない。
- ・ 中学生や保護者が学校説明会等に参加せず、学校の取組内容や生活指導の厳しさについてよく調べていないことがある。 等々

(2) 都立高校における取組み【説明：足立工業高校校長、青井高校校長】

ア 足立工業高校

- ・ 中退者を減らすということよりも、入学した生徒を3年間でいろいろなことを通して育て、卒業後、社会に送り出すことをミッションと考えている。
- ・ 物づくりに興味・関心のある子どもたちを集めることは1つの目標だが、物づくりに興味・関心のある子ばかりが入学してくるわけではない。物づくりに興味・関心のない子も含めて、物づくりを通して、楽しさや難しさ、奥深さを学んでもらい、社会に送り出す方向にシフトを変えている。
- ・ その成果とまではいかないが、昨年度は、中退者を少し減らすことができ

た。

イ 青井高校

- ・ 令和3年度は、元年度・2年度に比べ中退者が大きく減少した。
- ・ その理由としては、募集人員がそもそも減ったこと、生活指導を徹底していること、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーの複数配置による手厚い相談体制を構築していること等が考えられる。
- ・ 入学者選抜の成績と退学率に有意な相関関係が見られることから、募集段階あるいは入学後のケアなどの対策を講じることで中退防止につながれるのではないかと考えている。

(3) 教育委員からの主な意見

- ・ 区立中学校では、キャリア教育として、1年生から「これをやりたいから勉強しなければならない」という自分の思いを持てるように指導している。
- ・ 1年生のうちから高校を調べ、2年生で高校訪問を実施し、3年生では訪問したうえで様々な話を聞く等、早め早めに取り組んでいる。
- ・ 現在は様々な手段で情報を得ることができるため、実際に高校を訪問する、インターネットで調べる、先輩・卒業生から様子を聞くなど、保護者を通してではなく、子どもたち本人が勉強するという方向で動いている。
- ・ 中学校側でも、読む力・計算力といった基礎学力がないと厳しい状態になることは分かっているので、授業改善やA I の活用を進めている。
- ・ 「百マス計算を毎日続ける」「文章を音読する」といった単純なことの継続が大事だと思う。当たり前のことを徹底できれば、まちの主役になれる可能性もある。生きる力を身につけられる学校があってもよいのではないか。

2 子どもたちの健康・意欲・活動・家庭環境に対するサポートについて

(1) 都立高校における取組み【説明：足立工業高校校長、青井高校校長】

- ・ 学校の教員だけでは対応できない生徒に対しては、スクールカウンセラーに加えて、シニアカウンセラーも配置し、この方々との連携により生徒の様々なフォローや面談などを行っている。
- ・ 発達障がいについて詳しく分からないという先生も多いため、東京都全体で3名配置している特別支援教育のスーパーバイザー等をお願いして、継続的に支援会議を開催している。
- ・ 就学支援金や都独自の給付金を受けている経済的に厳しい家庭や、親・兄弟等の面倒を見ているヤングケアラー等、家庭環境にも様々な課題がある。
- ・ 週に3回、生徒がスクールカウンセラーとユースソーシャルワーカーに対して何らかの相談ができる体制を整えている。
- ・ ユースソーシャルワーカーはスクールカウンセラーとは違って、心理の専門

家ではないが、生徒に寄り添って日常や家庭の悩み、進路相談など様々なケア対応をしている。

(2) 教育委員からの主な意見

- ・ 区立小・中学校には全てコミュニケーションの教室が設置され、コミュニケーションに課題のある子どもたちに対する支援は手厚くなってきたが、高校に入学すると支援体制がないため、子ども本人も高校の先生も困っているのではないか。
- ・ ヤングケアラーについては、高校どころか、小・中学校から増加しており、親や兄弟の面倒を見ることで学習への意欲が落ちてしまうこともある。ヤングケアラーは見つけにくいですが、スクールカウンセラーも活用しながら早急に見つけて対応いただきたい。

3 令和5年度に向けて区が検討している若年者支援の新規事業案について

(1) 「(仮称) あだち若者全力応援プラン」【説明：あだち未来支援室長】

ア 学ぶ

- ・ 高校中退者等への高卒認定試験対策
- ・ 学び直し支援を行う居場所の設置
- ・ 難関大学を目指す高校生版はばたき塾のような仕組みの導入

イ 働く

- ・ 就労準備のための個別支援
- ・ NPO等でのボランティア体験を通じたコミュニケーション能力向上事業

ウ 暮らす

- ・ 国や都の支援制度対象外の低所得世帯を対象とした学校外活動費等の助成

(2) 都立高校校長からの主な意見

- ・ ターゲットとする高校生や中退者に、本プランを知ってもらい、利用してもらうための仕組みづくりが大事になってくると思う。
- ・ 本プランは、ただ居場所を提供するだけでなく、誰かが相手をしてくれる環境が整っているため、生徒が利用することに対する不安がなくなり、高校としてもPRしやすい。

以上